



Safe Crop Project News



No.23 2019年9月発行

「ベトナム北部地域における安全作物の信頼性向上プロジェクト（2016年～2021年）」は、北部地域2市11省において、「Basic GAP (Good Agricultural Practices)」を始めとする安全作物栽培の技術規範に沿った生産活動、消費者の安全野菜への信頼醸成、及び、多様なサプライチェーンの構築を支援することで、対象地域における安全作物栽培の振興を目指します。

第5回ビジネスフォーラム開催

9月13日にハノイ市 Pullman Hotel において、Hanoi Promotion Agency (HPA) と共に、生産者とバイヤーのマッチングを目的とする第5回安全作物ビジネスフォーラムを開催しました。プロジェクト対象省とハノイ市の生産者、安全食品事業者、購買者、政府関係者、農業資材メーカー、JICA ベトナム事務所、JICA プロジェクトチームから約300名が参加するイベントとなりました。今回のフォーラムの成果は以下2つです。



JICA ベトナム事務所岡次長によるスピーチ

1. 野菜生産者以外にも対象を広げることで多くのバイヤーの関心を獲得

これまでのフォーラムは、プロジェクトが対象とする安全野菜生産者グループとその買い手のマッチングを目的としていました。しかしながら、対象を野菜生産者に限定することで、マッチング相手となる買い手を集めることが難しいという課題に直面していました。安全野菜を継続的に一定以上購入する買い手が限られている現状では、生産者グループ、買い手とも、毎回同じ相手と会うことになり、参加する動機づけが低下する結果となっていました。

そこで、今回は野菜に限定せず、安全作物とその加工品全般の生産者を対象とすることとしました。プロジェクト対象の生産者グループに加え、主催者である HPA を通じて、ハノイ市の安全作物生産者や食品事業者等を招待しました。このことでバイヤーの参加を促進することができました。

TOT&TOF (バックニン省、ハイフォン市)

6月に開催された第3回 JCC において経験共有省での活動及びターゲットグループの選定が合意され(詳細は8月発行のNL22号にて報告)、7月より経験共有省における活動を本格的に始動しています。今回は TOT (Training of Trainers) と TOF (Training of Farmers) 実施の報告をさせていただきます。

2. バイヤーに生産者等が売り込む形とすることで短時間に集中的な商談が可能に

これまでのフォーラムでは、生産者の展示ブースをバイヤーが訪問して商談する形式をとっていました。ベトナムの一般的なトレードフェアと同じ形式です。今回はこれに加えて、14の大手バイヤーにテーブルを用意し、生産者や加工会社がテーブルを回って商談する方式を導入しました。生産者等には、バイヤーの情報を事前に共有し事前予約を受け付けることで、人気のある大手スーパーなどのマッチングで混乱が生じない工夫をしました。この結果マッチングが活性化し、2時間で合計139^{*1}のマッチングが行われました。バイヤー、生産者双方が商談に集中できたことで、短時間に効率的にマッチングができたと考えられます。これまでの方式では、バイヤーを待つしかなかったプロジェクトの生産者グループも、積極的にバイヤーと商談をしていました。



バイヤーと商談を行う Quynh Hai 農協 (タイビン省)

プロジェクトの生産者グループにおいては、早々に取引が決まったグループがいる一方で、バイヤーにうまく売り込みができなかった、取引条件が合わず不調に終わったグループもありました。今後は、グループごとの課題に応じたマーケティング能力強化を支援できればと考えています。

*1 商談回数 (バイヤーに配布したマッチング結果シートの HPA による集計データ)

TOT

7月16日、17日にバックニン省、8月1日にハイフォン市において、DARD (Department of Agriculture and Rural Development) 及び農業普及センターの職員、選定されたターゲットグループのリーダーを対象に生産とマーケティングの TOT

を開催し、それぞれ総勢約 20 名が参加しました。

今回の TOT においては、これまでのプロジェクト活動で得られた成果を、今後は現地政府が主体となって普及拡大して行くことに向け、プロジェクトチーム主導ではなく、CPMU(Central Project Management Unit)が中心となって講義を実施し、DARD から適正な農薬管理に関する講義が為されました。対象グループのリーダーからは冬作準備に間に合うよう、早期に TOF 及び各種現場での指導を実施して欲しいという要望がありました。また、マーケティングの活動計画作成のグループワークを行うなど、TOT は研修生の積極的な参加の元、充実した内容となりました。

TOF

TOT に引き続き、TOT を受講した DARD 職員が主体となり、生産とマーケティングの TOF をターゲットグループとして選定された Ngam Mac 農協 (バックニン省)、及び Thai Son 農協 (ハイフォン市) において、それぞれ実施しました。

生産の TOF は、2 グループとも安全野菜生産を行っている一方、GAP(Good Agricultural Practice)や記帳に係る体系的な知識が不足していることから、GAP に則った生産や共同出荷の前提として必要な知識を中心とする講義構成となりました。マーケティングの TOF については、先に実施した Ngam Mac 農協においてはマーケティングの知識を体系的にカバーする内容での実施となりました。一方、グループワークの時間を十分に確保することができなかったことより、Thai Son 農協においては、マーケティング活動計画策定の前提となる「グループの現状や外部環境

についての共通理解」を深める目的で、SWOT(Strengths, Weaknesses, Oppotunities, Threats)分析のグループワークに多くの時間をあてる構成となりました。



SWOT 分析に取り組む Thai Son 農協のメンバー

いずれのグループにとっても、共同出荷体制を強化しながら、計画的に安全野菜生産と販路開拓を行っていくことは新しい試みとなります。現在プロジェクトでは CPMU と共に、DARD と連携しながら、本格的な冬作栽培開始に向けた支援を集中的に実施中です。

JICA プロジェクトチームの紹介

2019 年 5 月より本プロジェクトで共同販売/共同購買事業/畑作物栽培を担当しております井上裕登です。JGAP の指導員でもあります。本プロジェクトと並行して、ケニア北部でも野菜栽培にかかるプロジェクトに従事しています。ケニアでは、文字の読めない村人への農業の普及方法を考えたり、村での野菜販売による利益配分の方法を考えたり、市場から遠い村で野菜の販売先を探してきました。ケニアと本プロジェクトの対象地域では、農家さんの技術レベルや市場の発展度合いは異なります。しかし、環境は違えども、農業技術の普及方法、組織内の仕組みづくり、売り先の選定方法などを考え、活動を実施してきた経験は本プロジェクトにも活用できるものと考えています。

ケニアで、野菜栽培による金銭面や栄養面の利点を村人にアピールしたことで、野菜栽培への意欲が大きく上がったことがありました。本プロジェクトでも、安全作物栽培のための活動が生み出す、収益や経営安定に対する効果をアピールすることで、農家さんの自発的な活動につながるよう意識したいと思います。そうした意識を持ちながら、農産物の安全性・品質向上、農薬使用量

の低減、ターゲットグループによる共同販売を目指し、活動を行ってまいります。



ケニアのプロジェクト対象村でササゲの葉を収穫した村人たちと

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

JICA プロジェクト事務所

Room 201, Department of Crop Production, Ministry of Agriculture and Rural Development,
2 Ngoc Ha Str., Ba Dinh Dist., Hanoi, Vietnam
Tel/Fax : +84 24 3244 4373, Email: safecropproject@gmail.com